

■第9回 介護保険運営協議会の記録

日時：平成30年1月30日（火）14時～17時

場所：宝塚市役所 特別会議室

出席者：大和委員、横山委員、小田中委員、額田委員、神谷委員、繁田委員、福本委員、
後藤委員、杉浦委員、塚本委員、曾我委員、牧野委員、佐藤（雅）委員

次第：1 開会

2 協議事項

- (1) 特別給付（配食サービス）の給付率について
- (2) 高齢者の自立支援、重度化防止等の取組と目標値及びいわゆるインセンティブ交付金について
- (3) 平成30年度報酬改定に基づく介護給付等対象サービスの給付費推計について
- (4) 第7期介護保険事業計画期間の介護保険料基準額設定（案）について
- (5) 宝塚市地域包括ケア推進プラン（高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画）（素案）のパブリック・コメント実施結果について
- (6) 宝塚市地域包括ケア推進プラン（高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画）について

3 報告事項

- (1) 平成30年度報酬改定について
- (2) 介護サービス事業に係る指定申請及び更新申請手数料について（地域密着型サービス事業、介護予防・日常生活支援総合事業、居宅介護支援事業）
- (3) 宝塚市指定地域密着型サービスの人員、設備及び運営に関する基準について
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) 前回の議事について

4 その他

会議の経過

○配布資料の確認

○12名出席につき会は成立、傍聴0名

（会 長）

- ・今日で最後の会議となるのでよろしくお願ひしたい。

○事務局より特別給付（配食サービス）の給付率について資料説明

（会 長）

- ・説明のあった内容について何か意見や質問はあるだろうか。
- ・条例で定めるということになっているが、特に意見がなければ市の提案通りでよいだろう

か。

○一同了承

(会 長)

・では次の案件について説明を。

○事務局より高齢者の自立支援、重度化予防等の取組と目標及びいわゆるインセンティブ交付金について資料説明

(委 員)

・資料3の15ページ、いずれ目標に対して評価を行うと思うが、12ページの重点取組が分野に該当しそれらに対して何等かの具体的取組が紐づけされ指標が出て来るのだと理解したが合っているだろうか。
・指標に対して具体的に何をすれば目標に近づくのかという説明は必要ないのか。

(事務局)

・指標名に対して具体的に紐づけできる施策としては、配布している資料7の事業計画書の77ページ以降にあげてあり、それぞれの施策を総合的に達成することで指標の結果が改善されていくと考えている。

(委 員)

・では資料3の15ページ、報告の際には具体的取組部分には重点取組の分野と取り組みに関しては同じ項目が書かれるということか。

(事務局)

・具体的取組としてはいきいき百歳体操の実施やサポーター養成講座の回数などが記載されていく。

(委 員)

・そのように記載するのであればそのように書いていただかなければ審議するうえで判断根拠が見えづらいのだが。

(委 員)

・従来の施策に何がプラスされたのか見えづらい。従来の延長だけなのか、新たな施策は何か教えていただきたい。

(事務局)

・施策体系の組み替えを行ったが、取り組む内容は基本的に継承しており、延長部分もある。新たな点としては介護人材、雇用関係などで資料7の83ページ、雇用就労への支援を新たな施策として位置付けている。また、介護人材については114ページ、介護人材の育成確保として事業者支援のなかで日常生活総合事業のスタートにあたり従事者養成研修を計画的に毎年講座開催していくといった考えだ。
・また、保険者として従来は自ら目標値を掲げてその評価をするPDCAサイクルを回すことができていなかったのが、国の方からも制度化するよう指示している点が今回の主眼となっている。

(委 員)

・では基本的に平成32年度までは従来の延長ということでもいいのか。

(委員)

・12ページ、通いの場への参加率が倍ぐらいあがっているが、今の施策を同じように進めて足りるのか。

(事務局)

・これについては議論の多い部分であり、兵庫県が掲げることを推奨しているためこの数値を掲載している。10%というのは国が定めている目標値であり、それに倣ったものだ。

(委員)

・達成できるのか。

(事務局)

・近づけるよう実施したい。

(委員)

・目標値はいくらでも設定できるが、その達成に向けて具体的施策が見えない。そのため新規取組はないのかと聞いている。

(事務局)

・達成に向けた新規というものはないが、いきいき百歳体操は自主的な活動なのでこれを普及・促進していくことや、栄養面や口腔面なども含めたカリキュラムにするといった取り組みを考えている。

(委員)

・カリキュラムについては分かったが、では体操をする場を増やす施策はあるのか。今の延長線上では増えないというのが実感だが。

(事務局)

・場所の課題はこれまでも問題で、集会所や自治会館が主な活動場所になっているが、場合によっては大型の特養やグループホームのスペースなどが活用できないか実態調査を行いたいと考えている。また、その他の場所の確保策がないか並行して調査したいと思う。

(会長)

・具体的な方策が見えてこないという点をみんな気にしているのだと思う。今説明のあったような例えばいきいき百歳体操の場にしても地域交流スペース開放の呼びかけなど、具体的な部分が見えないということだろう。

(事務局)

・いきいき百歳体操の例を出したが、いきいき百歳体操だけが取組ではないので、担い手も含めて居場所というのもふまえながらの方向になる。

(会長)

・確かに総合的に見て行かなければならないだろう。いきいき百歳体操は象徴的なものであるだけであり、ボランティアや社会活動の促進に向けたインセンティブなど、総合的な取り組みの結果、指標が改善されることになる。

・具体的な取組についてはもう少し検討していく必要があると思うし、市だけではなかなか出てこない部分もあると思うので、市民の側からも協力を得ながら進めるということではいいだろうか。

(事務局)

- ・いきいき百歳体操も含めて、地域の人が主体となった活動として民生委員やミニデイなど、われわれが把握できていない活動などもあるので、そうしたものも汲み上げられるようにしていきたい。

(委員)

- ・議題として考えると、具体的な取組と目標値の妥当性については判断できるだけの情報が提示されていないのではないか。本日で会議は終わりとのことだが、協議会として認めるという判断が出来る状況ではないと思うのだがどうするのか。

(会長)

- ・今ここで具体的な取組を考えてそれが目標達成に妥当性があるとするのは正直難しいだろう。ただ、計画策定の期限もあるので再度委員会を開催することはできないので現実的な選択をしなければならない。

(事務局)

- ・指標と関係について、具体的な取組をもう少し施策の展開部分で書き込みたい。それを実際に取り組んだ際に指標にどういう影響をするかについてはあくまでも想定となるが、取組自体は具体的に考えたいと思う。

(会長)

- ・では庁内で調整をお願いするとし、重点目標ごとに掲げた指標についてはこれで構わないか。

(事務局)

- ・目標値の検証については、国の方では毎年検証し変更していくことも想定しているので、来年度の実績等をふまえて実現性のある設定へ適宜修正するとし、今回は仮置き値として来年度以降改定していくという考え方で理解いただければと思う。

(会長)

- ・取組と目標を掲げるのは初めてのことであり手探りなところもあるだろう。今回は重点取組に沿って指標をつくり、1年後に検証するというのでいいか。

(委員)

- ・議事録なりに仮置き値として具体的な取組を今後検討した上で了承ということがぎりぎりの線だ。
- ・これを市の取組や目標として協議委員会として完全に認めたというのは難しい。留意事項として、具体的な取組の検討が必要であること、目標は仮置き値であることとしてであれば構わない。

(会長)

- ・では議事録に留意事項として明記するというので。

(委員)

- ・市としては今のような付帯条件をつけても支障はないのか。また、そもそも計画内の一部分にすぎないインセンティブ交付金について何故協議事項にあげる必要があったのか。

(事務局)

- ・必須的記載事項でもあるため、審議をいただく必要があるとの考えだ。

(委員)

- ・では先ほどのように付帯事項付きの協議結果でも構わないのか。

(事務局)

- ・13ページにあるように、取組の達成状況を毎年見直しが可能なので構わない。

(委員)

- ・では、今そこまで詰める必要はないのではないか。

(会長)

- ・そういうことになる。

(委員)

- ・高齢者の自立支援、重度化防止については兵庫県や全国レベルで比較しても上位にあるのではないかと。インセンティブ交付金を国が制度化するのは、これをなかなかできない市町村が全国に多いため、国はこういう交付金をつくって引き上げようとしているのだと思う。ここにあるいきいき百歳体操のような取組をまったくやっていない地域は沢山ある。今までやってきた施策をそのまま継続したり回数を増やすという方向で引き続き取り組む、これでインセンティブ交付金は十分もらえると思うし、また報告書に書けると市は判断しているのだと思っているがどうなのか。

(事務局)

- ・インセンティブ交付金の評価指標として国が挙げているものについては、本市ではほぼ取り組んでいるので交付金がもらえる可能性は高いと考えている。

(委員)

- ・もし目標値までいかなかったら何かあるのか。

(事務局)

- ・未達という評価となり、評価検証し施策が不十分だったのか目標値が高すぎたのかななどをふまえ、次年度以降の目標値の設定を行っていくことになる。

(会長)

- ・いわゆるそれがPDCAサイクルだ。出来なかった問題点をチェックしサイクルを回していくことに意味がある。
- ・では議事録に付記するというのでいいだろうか。

○一同了承

(会長)

- ・では次の案件について説明を。

○事務局より平成30年度報酬改定に基づく介護給付等対象サービスの給付費推計について資料説明

(会長)

- ・説明のあった市の提案でよいだろうか。

○一同了承

(会 長)

・では次の案件について説明を。

○事務局より第7期介護保険事業計画期間の介護保険料基準額設定(案)について資料説明

(会 長)

・特に意見はないだろうか。なければ8億円取り崩しという方向でよいだろうか。

○一同了承

(会 長)

・では次の案件について説明を。

○事務局より宝塚市地域包括ケア推進プラン(高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画)
(素案)のパブリック・コメント実施結果について資料説明

(会 長)

・パブリックコメントへの対応は提示のあった市の方針で構わないだろうか。

○一同了承

(会 長)

・では次の案件について説明を。

○事務局より宝塚市地域包括ケア推進プラン(高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画)に
ついて資料説明

(委 員)

・83ページ、雇用就労に関してこれを読んだだけでは具体的には思い浮かばないのだが、ど
んなイメージなのか。

(事務局)

・担当課が本日出席していないので、問い合わせすぐにお答えしたい。

(会 長)

・ではそれまで他の意見を。

(委 員)

・概要を作成すると思うが、このプランの目玉は何なのかといった際にどのような答えにな
るのか、また、どのような概要版を作成するのかがいたい。

(事務局)

・現在はまだ検討中だが、ぱっと見ても分かりやすいようなものにはしたい。

(委 員)

・従来の取組、新たな取組と焦点は難しいと思う。市民の理解を得つつ今後進めていかなけ
ればならない部分を出すのは本編すべてを見るのは難しいと思うが、どうせ見てもらえな
いという考えではなく、情報発信の努力はお願いしたい。

(事務局)

・老人クラブ等にも説明に出ていくので、その際に分かりやすく活用できよう概要版を作成したいと考えている。

(委員)

・サービスを使う高齢者だけでなく、将来この宝塚市で歳を取っていく人も念頭に置き、気になった点はホームページなどからもぱっと調べられるようなつくりをしていただきたい。

(委員)

・88ページ、防災防火の関係だが、自主防災組織とあるが実はなかなか増えないでいる。増えるようなきっかけを行政の方から打ち出してくれないか。

(事務局)

・担当の消防の方から組織化へ向けての呼びかけなどは行っているが、なかなか難しいというのは把握している。

(委員)

・自主防災組織をつくってくださいという働きかけをどこの部署がどこへ向かって発信しているのかがまず分からない。広報などに掲載され、手を挙げればやっとそこで支援がくる。これは老人会にも同じことがいえる。増やしますよといっても誰がどのようなきっかけをつくるのか。チラシや広報で呼びかけて終わりでは物足りない。

(委員)

・入る人がいるようでないのが現実だ。また、入ると役が回って来たりと避けられる。解散する地域も出てきている。60歳から加入できるが、入った途端若いからと役を押し付けられてしまう。

(委員)

・ネットワークの充実とあるが、これはどこが核になってネットワークを構築するのか。

(事務局)

・セーフティネット会議の概念図にあるように、地域福祉計画で社協が地区センターを圏域ごとに設けており、ネットワークとしてはまずは社協や地域の人、地域福祉課なども協働して取り組んでいる。

(委員)

・それは問題が起こったらネットワークをつくるのか。それともネットワークを作っておきみんなで支え合うイメージか。

(事務局)

・支え合う形だ。基本的にセーフティネットは地域で課題があった時に段階的に連絡会などで会議を進め、関係者で解決に向けた検討を重ね、地域へ返すといった形になっている。

(委員)

・では何か課題があった場合訴えをあげればネットワークで行政が対応するということか。

(事務局)

・行政というより、そうしたものを受け、地域にある地区センターや包括支援センター、民生委員など関係者で地域の課題にネットワークで検討を進める、フォーマルとインフォーマルを含めた体制となる。

(会長)

- ・ネットワークの核になるのも事案によるが基本的には社協ということになるだろう。介護保険でも地域ケア会議もこうしたネットワークになっているので、包括やケアマネなどが個別事例ごとに会議を開いており、それらもここに入ってくる部分だろう。
- ・地域包括ケアを考えるうえで介護保険だけでは済まず、いろんな部署などが関わっており、縦割りでは解決しない話になる。今後ますます包括的になっていかなければならない状況になっていくので、市民だけでなく行政も意識を変え横断的に一緒に取り組んでいく必要があるだろう。
- ・他に意見がなければ計画については提案通りでよいだろうか。

○一同了承

(会 長)

- ・では報告事項に移りたい。

○事務局より報告事項の説明

○雇用就労の担当課より説明

(事務局)

- ・ハローワークと連携しており、今年でいえばシニアワークフェアとして高齢者対象に一般企業への就労に向けた就職相談会の開催や、シルバー人材への紹介、就労だけにかかわらず生きがいづくりもふくめたエイジフレンドリーシティの啓発ブースも設け、生きがいづくりとしての就労フェアも考えている。また、先立ってシニア向けの就労支援セミナーも予定しており、フェアへともつなげていくような形で取り組む。
- ・シルバー人材センターについては、随時会員募集はしているが、最近では一時託児やスーパーの派遣業務なども請け負っており、多岐に渡る仕事がある。会員登録時に希望の職種を確認し、マッチングを図るようにしている。

(委 員)

- ・シニアワークフェアはどこが主体でどこで開催するのか。

(事務局)

- ・市とハローワークが主催で中央公民館で実施する。

(委 員)

- ・シニアとはどういう対象になるのか。また、どのような周知広報を行っているのか。

(事務局)

- ・概ね55歳とし絶対的な制限は設けず広く募っている。広報宝塚、ホームページ、ハローワーク、ワークサポート宝塚などに求人に来た人向けにチラシやポスターを設置している。

(委 員)

- ・さらに力を入れていくような計画や取組はあるのか。また、フェアは従来も取り組んできていたのか。

(事務局)

- ・シニアワークフェアは昨年も開催しているが、商工勤労課では高齢者も含めて女性や若者などいろいろな就労支援を行っており、高齢者特化という施策ばかりは打っていない。

- ・ワークサポート宝塚は元々の対象者は女性と若者だったが、高齢者のニーズも増えてきていたことからシニアワークフェアを開催している。

(委員)

- ・このような商工勤労課と介護保険課の協力による取組はこれまでもあったのか。

(事務局)

- ・この間、ハローワーク西宮より高齢者の就労に関する照会が商工勤労課を通じてあり、宝塚市では従事者養成研修を行っている関係からチラシの設置などといった連携やつながりは今年から取り組んでいるので、受講者向けに就職面談なども行う流れに実際につながっている。

(委員)

- ・連携も含めて、お願いしてだけでなく、絵にかいた餅にならないように庁内体制も含めて検討をお願いしたい。

(会長)

- ・先の報告について何か意見はあるだろうか。なければ今後のスケジュールについて説明を。

○今後のスケジュールについて

(会長)

- ・それでは次の報告事項について説明を。

(委員)

- ・要旨だが、記録の抜き書きの体裁だが、決定事項だけをまとめるべきではないか。冒頭にもあった付帯事項など遡りやすいようにすべきではないか。

(会長)

- ・市として要旨までつける方針があるのでなければ記録で十分だろう。他市などでは記録そのもののみということが多い。手間であればかえって要旨をつくらず、しっかりした記録があるのだからそれだけでいいのではないか、検討いただきたい。
- ・最後に他に何かあるだろうか。

(事務局)

- ・いただいた意見から若干の修正が生じられるので、会長と事務局に一任ということでした承いただきたい。

○閉会挨拶

(以上)